

劍けん（海老澤宏升えびさわこうしゅう）

邪惡じゃあく 妖魔やうまに 立ち向かうたちむかう 正義せいぎの 劍けん

龍りゅうの 劍けんなり 虎とらの 劍けんなり

天てんを 突きつき 霧きりを 払いはら 天地てんちを 貫つらぬく

壯麗そうれいなる 劍けんなり

白装束しろしょうぞくに 身みを 包つつみ

陰陽道おんみょうどうの 神技しんぎ 傾かたむけ 一心いっしん 不亂ふらん

湧わき 出いで ずる 神験しんけんの 清水せいすいにて 打うつ

永久とわの 精氣せいぎを 秘ひめたる 神かみの 劍けんなり

解説 日本刀の美しい輝きとその神秘性を描いた詩。

語釈 ※邪惡じゃあく 心がねじ曲がつて悪いこと。また、そのさま。奸悪かんあく。※妖魔やうま ばけもの。妖怪。魔物。※壯麗そうれい おごそかでうるわしいこと。さかんで美しいこと。※白装束しろしょうぞく 全身白づくめの服装のこと。狭義では神事で神主、巫女、修験者などが身に着ける単衣の事。※陰陽道おんみょうどう 平安時代以後残存する曆には、多くの悪日、悪方角などが記されている。これら禍を除き福を招くため、陰陽師は祓はらいや祭りごとを行う。※神験しんけん 神の靈験。神の表す、みしるし。※清水せいすい 濁りのないすんだきれいな水。※精氣せいぎ 人の生命を活動させるもとなる力。精力。※※

通釈 邪惡、妖魔に立ち向かう正義の劍は、まさに龍の劍で有り、虎の劍でもある。天を貫き、悪霧を払い、天地を貫く壯麗なる劍なのだ。その劍を白装束を身に纏まとった刀匠とうしやうが、陰陽道の神技を傾け一心不亂に湧きいずる神の清水で叩き上げ、永久の精氣を秘めた劍を作り出すと、それは神の劍となるのだ。